



菅野 有紀子/ Yukiko Sugano, *重し/weight*, 2020, H56×W40×D40 cm/ H22×W15.7×D15.7 inches, ガラス、銅金網、耐火セメント/ Glass, copper wire mesh, refractory cement

現代美術 艸居 〒605-0089 京都市東山区元町 381-2
Sokyo Gallery 381-2 Motomachi, Higashiyama-ku, Kyoto, Japan 605-0089
T: 075-746-4456 F: 075-746-4457 info@gallery-sokyo.jp www.gallery-sokyo.jp



朴木 友美 / Tomomi Hoonoki, 陶祠「吉祥天女、ホルス」 / Shrine of ceramics "Auspicious celestial maiden, Horus", 2020,
H29.5 × W20 × D18 cm / H11.6 × W7.8 × D7 inches, 磁器土 / Porcelain soil



米津 真理奈/ Marina Yonetsu, *Contact-15*, 2020, H14×W22×D14 cm/ H5.5×W8.6×D5.5 inches, ガラス、銀/ Glass, silver



田中 陽子 / Yoko Tanaka, 陰逸華 / *Chrysanthemum*, 2020, H24 × W46 × D46 cm / H9.4 × W18.1 × D18.1 inches, 陶土、釉薬、ラッカー / Clay, glaze, lacquer

艸居 Annex 展覧会
『女流作家 4 人展』

出展作家 (50 音順): 菅野 有紀子 田中 陽子 朴木 友美 米津 真理奈

2020 年 8 月 28 日 (金) - 9 月 16 日 (水)
艸居 Annex

〒604-0924 京都市中京区一之船入町375 SSSビル 3F

開廊時間: 1:00PM-6:30PM 定休日: 日・月

現代美術 艸居 〒605-0089 京都市東山区元町 381-2
Sokyo Gallery 381-2 Motomachi, Higashiyama-ku, Kyoto, Japan 605-0089
T: 075-746-4456 F: 075-746-4457 info@gallery-sokyo.jp www.gallery-sokyo.jp



プレスリリース

この度、現代美術 艸居では4名の女性作家による展覧会『女流作家4人展』を艸居 Annex にて開催致します。本展は陶芸作家である田中陽子と朴木友美、ガラス作家の菅野有紀子と米津真理奈からなる4人展となります。次世代を牽引していく秘めた情熱を感じていただく機会となれば幸いです。

菅野の制作は自身の経験やそこから生まれる感情が出発点となっています。過去の記憶や感情が日常生活の様々な場面で繰り返し浮き上がってきては、様々なことに影響を及ぼします。無意識のうちに影響を与える記憶や感情は無形でありながらも確かに存在しています。そう身体が受け取るはっきりとした感覚を、彼女は人物や具象的なモチーフで表現します。また、人間の美的感覚に強く訴える現象として、光を造形していくことができるガラスの素材としての可能性を感じながら、菅野は日々の制作に取り組んでいます。本展で展示される「重し」はコロナウイルスの世界的蔓延からインスピレーションを受けた作品です。これまでの日常が失われ、先が見えない不安の中で、大切なものが飛んでいってしまわないような「重し」になるものを作ろうと思ったと菅野は語っています。

田中は陶で花の命を表します。制作において、土の可塑性や乾燥による歪みといった様々な性質を持つ土に触れていると、彼女は命というものを身体的に感じると言います。田中はそのような性質を持つ土が焼成され陶に変化した時に、その命が危うげで繊細でありながらも、力強い存在になると感じています。田中が「人の世が絶え間なく移り行く、儚い命を思う儀式としての装置」と語る陶の花は、見る者に生命の力強さと、時が来れば散っていく儚い面を見せてくれるかのようです。本展展示作品も、生け花で剪定された花や、葬儀の際祭壇に飾られるシンパシーフラワーがモチーフになるなど、「命」を強く連想させる作品となっています。

朴木はモスクのモザイクタイルや密教の曼陀羅、吉祥天像や地藏菩薩などの古今東西の信仰対象としての工芸品や美術品の要素を、現代に生きる彼女自身の感性を通して具現化しています。神の存在や死後の世界など人間の理解の範疇を超えたそれぞれの文化や宗教観からとらえたスピリチュアルな創作物はそれぞれに綿密さや強固な世界観を持っています。時代や地域を超えてそれらに触れられるという現代人の優位性を活かし、彼女は独自の感性を融合させた新たな祈りのための作品を模索しています。朴木が陶を用いる理由は、工芸品としての美しさ、加飾技法による絵画性、彫刻的な立体造形という信仰対象としてのアイコン的要素を兼ね備えているからです。オブジェ作品だけでなく、器の制作も行っている朴木ですが、一般的な器が実用的な用途を持った物理的な器であるならば、本展で展示する「陶祠」は鑑賞者の心を満たす精神的器としての意味を持っています。



米津は「もの」に内在する「もの」をとらえることをテーマとして制作活動を行っています。制作媒体にガラスを選択する理由として、彼女はガラスという素材が持つ透過性や技法の多様性への可能性を挙げています。現在の彼女の技法は鋳造したガラスを冷却してひびを入れ、砕いた形状を継ぎなおして再構築するというもので、その独自の手法で表現の幅を広げています。本展で展示する「Concept」シリーズでは、死を意識するまでの過程を制作へ落とし込みました。生き物に内在する骨には自然が作り出す構造や機能に基づいた遺伝子ルールにその個体が生きた痕跡が組み込まれています。彼女はその美しさを造形としてとらえた後、ガラスに焼成し、焼きあがったものを砕いて、再構築していきます。創造、破壊、再構築という彼女の制作過程は死をゆっくりと黙想しながらの作業でもあります。

作家紹介（50音順）：

菅野 有紀子（すがの ゆきこ）

1983年兵庫県生まれ。現在、兵庫県にて制作。2012年能登島ガラス工房吹きガラス一年講座修了。2012-2015年 Glass Studio Toos、2015-2017年三田市ガラス工芸館にて勤務。2020年金沢卯辰山工芸工房修了。受賞歴は2019年第4回金沢・世界工芸トリエンナーレ大賞。出展展覧会に2018年金沢卯辰山工芸工房研修者作品展（石川）、2019年 Art Fair Tokyo 2019（東京）、2020年 Rempah Rempah での個展「誰かの人々」（石川）がある。

田中 陽子（たなか ようこ）

1992年石川県金沢市生まれ。現在、茨城県にて制作。2015年金沢美術工芸大学工芸学部工芸科卒業、2017年金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科修士課程修了、同年金沢卯辰山工芸工房入所。受賞歴に2015年「マイヤー×信楽大賞」日本陶芸の今一伝統と革新入選、2016年現在の形の陶芸萩大賞展Ⅳ岩国美術賞、第3回世界工芸トリエンナーレ入選、2017年第7回菊池ビエンナーレ展現代陶芸の今入選、Art Award Tokyo Marunouchi 2017 審査員高橋明也賞受賞、2018年第74回金沢市工芸展金沢工芸大学学長賞受賞。出展展覧会として2019年 Art Fair Tokyo 2019（東京）、Infinity Japan contemporary art show 2019（台湾）、Art Expo Malaysia 2019（マレーシア）、KOGEI Art Fair Kanazawa 2019（石川）がある。

朴木 友美（ほおのき とみみ）

1989年石川県生まれ。現在、石川県にて制作。2012年都留文科大学文学部国文学科卒業、2016年石川県九谷焼技術研究所研究科修了。2016-2018年陶芸工房従事。2019年金沢卯辰山工芸工房入所。受賞歴に2015年第30回石川の現在工芸展 NHK 金沢放送局長賞、2016年石川県立九谷焼技術研究所 28年度パーマネントコレクション選定。出展展覧会は2019年「九谷の現在」



カラフル・オーナメント・オブジェ・クタニ（石川）、2019 酒器展（東京）。

米津 真理奈（よねつ まりな）

1994 年大阪生まれ。現在、金沢を拠点に活動。2015 年富山ガラス造形研究所造形科修了、ドイツ・Bild-Werk-Frauenau にて Stephen Paul Day 氏のワークショップ受講、2017 年富山ガラス造形研究所研究科修了、2020 年金沢卯辰山工芸工房ガラス工房修了。受賞歴に 2017 年富山ガラス造形研究所卒業制作展優秀作品賞、2018 年富山市美術展インスタレーション部門 2018 優秀賞。出展展覧会に 2018 年第 7 回現代ガラス展 in 山陽小野田（山口）、工芸回廊グループ展（石川）、金沢卯辰山工芸工房研修者作品展（石川）、2019 年アートフェア東京 2019（東京）、2020 年 TAIPEI INTERNATIONAL ART FAIR（台湾）、Art Fair Philippines（フィリピン）など。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。

掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡くださいませ。

プレス担当：元林久美子

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

motobayashi@gallery-sokyo.jp Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457